

平成 29 年度第 1 回青森市健康福祉審議会児童福祉専門分科会会議概要

- 1 開催日時 平成 30 年 2 月 9 日（金） 10 時 00 分～12 時 00 分
- 2 開催場所 青森市総合福祉センター 2 階 大集会室
- 3 出席委員 宮崎秀一会長、佐藤秀樹委員、北澤祐一委員、坂本浩司委員、清水和秀委員、町田徳子委員、齋藤裕行委員
《計 7 名》
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 福祉部次長 荒内隆浩、
福祉部参事子どもしあわせ課長事務取扱 高野光広、
子育て支援課長 中嶋智明、子どもしあわせ課副参事 三浦裕子、
子育て支援課主幹 村田幸長、子どもしあわせ課主査 佐藤宏之、
教育委員会事務局指導課主査兼指導主事 木村文俊、
子育て支援課主事 石岡洸希、子どもしあわせ課主事 工藤拓也
《計 9 名》
- 6 会議次第
 - 1 開会
 - 2 福祉部長あいさつ
 - 3 議事
 - (1) 「青森市子ども総合プラン」及び「青森市子どもの権利の保障に関する行動計画」のフォローアップについて
 - (2) 幼保連携型認定こども園の設置の認可について
 - 4 その他
青森市子ども・子育て支援事業計画の見直しについて
- 7 議事概要
 - (1) 「青森市子ども総合プラン」及び「青森市子どもの権利の保障に関する行動計画」のフォローアップについて〔資料 1-1、1-2、1-3、1-4、1-5 参照〕事務局から説明があった。

意見・質疑応答

○委員

今年度1回目の開催がこの時期というのは遅い気がする。もう少し早い時期に開催してもらいたい。

この2つの計画と青森市教育振興基本計画で調整・突き合わせたものが反映されていないと思う。

認定こども園・幼稚園・保育所のそれぞれに呼称が異なる3つの要録がありその理解が難しいことなど、乳幼児期の教育・保育と小学校教育の連携が実現されていない。

浪岡の中学校でのいじめの問題にも触れる必要があるのではないか。

○委員

この資料が確定した後、何かの形で公表や報告をするのか。

○事務局

資料やいただいた意見をまとめたものをホームページにアップする。

○委員

今回のような検証は、毎年度実施する予定なのか。

○事務局

行動計画に関しては毎年度実施することになっている。総合プランは指標が変更となり流動的だが、検証していく必要があると考えている。

○委員

フォローアップとは評価・検証を行うことという理解で良いのか。

○事務局

フォローアップについてはその通りである。

○委員

子どもの権利に基づくこのような計画は多くはなく、他市にも注目されていると思うので、検証結果をどのような形で残していくのかということも考えていく必要がある。

○委員

福祉部と教育委員会が別々に取り組むのではなく、計画についても、合わせた評価・検証をするといった視点が必要。達成率の数字ではなく中身が大切だと思う。

○事務局

福祉部と教育委員会が別々にといった指摘があったが、市内全小・中学校での子どもの権利条例の理解を深める活動は、教育委員会と連携して実施したものである。また、月一回、子どもの権利相談センターと教育委員会指導課の担当者が集まり情報共有するなど連携している。

○委員

検証方法について、この指標の数値だけでなく検証結果を報告書などで文章化するという方法もあると思う。

○委員

表のみで示されるとどのような取組をしてきたかあまり見えてこないなので、取組の内容を記載した上でその結果の数字が出てくるような形にしても良かったと思う。

○委員

丁寧にまとめられていると思う。この結果を次への行動に繋げてほしい。

○委員

幼稚園から小学校への移行のカリキュラムに関してはだいぶ広まりを見せていると思う。幼稚園から小学校へ上げる指導要録はどれだけ活用されているのか少し疑問に思う。

計画の検証については、ちゃんと現場を見ているのか疑問に思う。数字だけでは現れない、現場でしか感じる事が出来ないこともあるので、その点を資料の中で示すことも大事だと思う。

○委員

数字では表せない部分が重要だと思う。乳幼児期の教育・保育と小学校教育の連携に関して、認定こども園・幼稚園・保育所で小学校の授業を体験するという取組をしてもいいのでは。

○委員

丁寧に評価・検証していると感じた。より効果的に検証結果を施策に反映させるため、例えば、数値が減少しているものには減少した原因や背景についての考察が記載されると、今後の取組の動機や方向性が見えてくるのではないかと感じた。

学校支援ボランティア数について、周知方法を具体的にどのように工夫していくのか記載があれば良かった。

○委員

目標値をどのくらい達成したかということだけでなく、未達成の部分についてはその背景を掘り下げて分析し、向上させるためにはどうしたらいいのかということも含め検証すべきだと思う。

○事務局

平成 29 年度の検証の際には、具体的な取組や数値が低下した原因などをどういう形でお見せするのが良いか検討し改善した形で会議に諮りたい。

○委員

資料 1 - 5、子ども会議委員からの意見について、関係部局への情報提供に止まらず子どもたちに回答をすべきだと思う。

フォローアップについては、今回の意見を反映させ最終的な形にしていきたい。

(2) 幼保連携型認定こども園の設置の認可について

※青森市情報公開条例（平成 17 年青森市条例第 26 号）第 7 条に規定する非開示情報を含む内容について審議等を行うため非公開。

事務局から説明があった。

審議

児童福祉専門分科会として、幼保連携型認定こども園の設置の認可を申請した 4 施設すべてについて、認可相応と判断した。

その他

青森市子ども・子育て支援事業計画の見直しについて

[参考資料 1、参考資料 2、当日配付資料参照]

事務局から説明があった。

意見・質疑応答

○委員

放課後児童会について、兄弟、姉妹も利用している場合の料金の軽減措置はあるのか。

○事務局

2 人目は半額、3 人目は無償で利用できる。

○委員

放課後児童会の利用時間が18時30分までというのは、標準的なものなのか。

○事務局

全国的に見てもその程度で、19時を超えるところはそれほどないと思う。

○委員

放課後児童会の利用料金について、今回は報告のみであるが以前は本分科会の中で議論して決めていた。駅前庁舎のさんぽぼでの託児機能に関しても以前であれば本会議で議論していたものなので、案件としても良かったのではと思う。

○委員

年度内はもう開催しないということで良いか。

○事務局

年度内は今回で最後だが、来年度は総合プランの指標等の見直しが必要である。また、フォローアップについても、より丁寧にしていきたいと考えている。